

教育課程特例校による特別の教育課程の編成の方針等について（英語活動の実施）

1 岡崎市における教育課程特例校指定の沿革

岡崎市では、英語で自分の思いや考えを伝え合うことができる「英語が話せるおかざきっ子」の育成を目指し、平成22年度より教育課程特例校の指定を受け、小学校第1学年から第6学年で「英語活動」を実施してきました。

平成31年度以降、学習指導要領の先行実施に伴い、第5、第6学年で外国語科の授業時間数が週2時間に増えたことを受け、教育課程特例校による特別の教育課程の編成を小学校第1学年から第4学年までに変更しました。

2 岡崎市における小学校第1学年から第4学年での取組

現在岡崎市では、小学校第1学年から第4学年において「英語活動」の授業を行っています。

第1学年と第2学年では、「生活科」の時間を35（第1学年は34）時間を「英語活動」に充てています。小学校第3学年と第4学年では、「総合的な学習の時間」35時間を「英語活動」に充てています。

【資料1】岡崎市の教育課程（基本案） ※令和4年度版

区 分	各 教 科										特別の教科 道徳	特別活動	総合的な学習の時間	外国語活動 + 英語活動	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語					
第1学年	306		136		68	68	68		102		34	34		0+34	850
第2学年	315		175		70	70	70		105		35	35		0+35	910
第3学年	245	70	175	90		60	60		105		35	35	35	35+35	980
第4学年	245	90	175	105		60	60		105		35	35	35	35+35	1015
第5学年	175	100	175	105		50	50	60	90	70	35	35	70		1015
第6学年	175	105	175	105		50	50	55	90	70	35	35	70		1015

各学年における「英語活動」では、毎日10分の帯時間に岡崎市小学英語研究委員会の自作DVD『OK English（約8分のDVD）』を視聴することで、週1コマの授業時間としています。DVDの内容は、英語の歌、フォニックス、リズムに合わせてネイティブスピーカーの後に単語や文を発音する活動、実際に動作をしながら学級の中で他の児童と会話をする活動など多岐にわたります。各学年の発達段階を考慮しながら



【資料2】OK English

ら、学級担任とともにDVDを繰り返し視聴することで、英語の音や基本的な表現に慣れ親しんでいます。

3 本校の取組

常磐小学校では、毎日8時10分から8時20分を「英語活動」の時間としています。児童は、英語活動の始まる前に、自分の席に着き、係の児童や学級担任がOK Englishの視聴の準備を行います。

OK Englishが始まると、児童は映像を見ながらオープニングの歌に合わせて、学級担任と一緒に振りを付けながら元気よく歌います。そして、視聴するDVDの内容に合わせて、学級担任と一緒にフォニックス、単語や文を発音する活動、他の児童と会話をする活動などを進めています。

3 成果

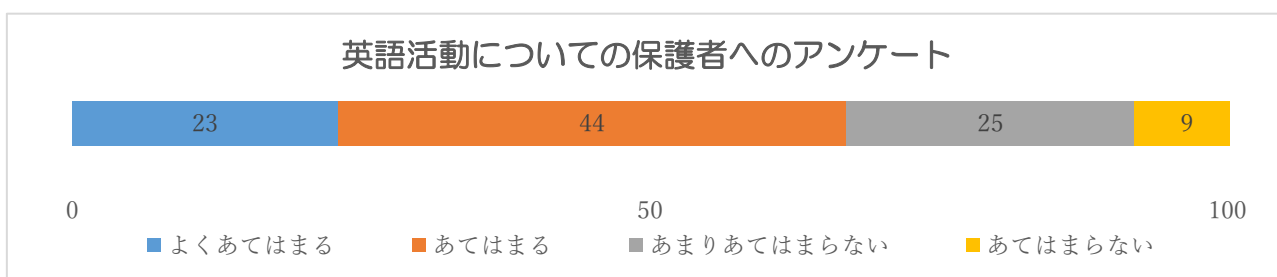
令和3年度に、1～4年生の児童へ行った授業に関するアンケートでは、「英語の授業は楽しいですか」の質問に対して、「楽しい」と答えた児童の割合は全体の91%でした。

「OK EnglishのDVDの映像にあわせて声を出していますか」の質問に対して、「出している」と答えた児童の割合は全体の84%でした。アンケートの結果から、英語活動が英語の授業を児童にとって楽しいものにしており、児童も積極的に英語に慣れ親しもうとしています。



4 保護者の声

令和3年度に、保護者へ行ったアンケートでは、「子供は英語学習のことを家庭で話している」の質問に対して、全体の67%が「あてはまる」と答えています。令和2年度は、72%で、令和3年度はその値は下がりました。これは、コロナ禍の影響で、積極的に英語を話したり、ゲームをしたりすることができなかったことに関係があると考えます。コロナ禍でも、多くの児童が英語活動に対して意欲的に取り組んだことが伺えますが、コロナ禍の状況でどのように英語活動をより充実させ、保護者の英語活動への理解をよりよいものにすることが令和4年度の課題です。



5 まとめ

成果でも述べたように、児童にとって英語活動は楽しいものとなっています。このことは、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育み、外国語活動、外国語の学習への学びにつながる原動力となることが予想されます。毎日10分の帯時間に、DVDを視聴するなかで、聞くこと、話すことなどのコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育むための、発達段階に応じた効果的な指導法についても検討していく必要があると考えます。